

【様式：個別の教育支援計画】

記入例：年中児を想定しています。

園名：会津〇〇子ども園

連絡先：

(令和〇年5月〇日作成)

令和〇年度（3歳児）	令和△年度（4歳児）	年度（5歳児）	
園長名：〇〇〇〇	園長名：〇〇〇〇	園長名：	
担任名：△△△△	担任名：□□□□	担任名：	
ふりがな 氏名	会津〇〇(男・女)	生年月日	令和〇年〇月〇日
		入園年月日	令和〇年4月6日
ふりがな 保護者氏名	会津△△()	統柄 住所 連絡先	〇〇市△△町□□一丁目□番地2 〇〇ハイツ203号室 TEL 090-1234-5678
発達検査 診断名等	・注意欠如多動症 (令和〇年△月□日〇〇病院△△医師による) ・田中ビネー知能検査 CA:3-3 MA: 2-10 IQ:〇〇 (令和〇年△月□日〇〇 病院△△医師による)	手帳等	未所持 所持している場合 〇〇手帳 福島県第123456号 〇級□種／A〇種令和〇年〇月〇日交付 令和〇年〇月更新
医療・ 療育機関等	・福島県総合療育センター小児科 〇〇医師 3か月に1回受診 ・□□耳鼻科 △△医師 ・△△眼科 斜視の経過観察 〇〇医師 1年に1回受診	保健・ 福祉	・〇〇市保健師△△さん 担当の保健師さんや利用している事業所などを記入します。 児童発達支援事業所「□□□」週1回利用
かかりつけの病院や主治医、 通院の頻度を記入します。			
子どもの姿（実態）			
健康	・走ったり、跳んだり、投げたりする運動遊びは年齢相応にできるが、不注意の傾向があり、危険回避が難しいことがある。 ・偏食がある。少量ずつ盛りつけ、友達が食べている様子を見て、どんな味なのか話題にすると、食べられることがある。 ・おむつ使用。→4歳〇か月：定時排泄で日中は下着で過ごせる。	人間関係	・朝のお集まりなど、学級で毎日行っている活動では、5分ほどならば支援員の先生と一緒に参加できるようになっている。 ・誕生会や〇〇集会など、大きな集団での活動や初めての活動では、落ち着かず、途中で教室に戻ってしまう。 ・R△追加：大人が仲立ちすることで、ごっこ遊びや簡単なルールのある遊びを友達と一緒にできるようになってきた。 例として様々なお子さんの様子を挙げています。担当するお子さんの実態に応じて、必要な部分を記入します。
環境	・園で飼育しているうさぎやめだか、園庭で見つけた昆虫などに興味をもち、積極的に世話ををすることができる。夢中になると終了時刻に活動を終えることが難しい。 ・友達が遊んでいる玩具に次々に興味をもち、試そうとするが、1つの玩具で落ち着いて遊べる時間はまだ短い。友達と目的を共有して遊ぶには、大人の仲介が必要である。	言葉	・思い通りにならないときに、友達を押す、ほしい玩具を黙ってしまったりすることもあるが、教師がモデルを示すと「かして」「一緒に遊ぼう」など、言葉で伝えようとしてることが見られる。 ・好きなテーマの絵本は、集中して見たり、聞いたりできる。 ・R△追加：時計やカレンダーの数字、友達の名前に興味をもち、何と書いてあるのか質問することが見られる。自分の名前が見て分かる。
表現	・絵を描いたりつくったりすることを好み、様々な色や形を試して取り組むことができる。 ・絵具や粘土、砂遊びなど、直接、手で触れて汚れるような素材には、苦手意識がある。 ・R△追加：歌詞を覚えたり、イメージしたことを言葉で表現したりするには時間がかかるが、動きを真似たり、リズムに合わせて踊ったりすることができる。	その他	・音声言語で説明するよりも、絵を描いたり、身振りを使ったりして説明した方が、伝わりやすい。 ・興味をもったものに対して、衝動的に行動するため、周囲の幼児と接触したり、本人の意に反して誤解されてしまったりすることがある。 課題となっていることに偏らず、できていること、対象児の良さもわかるように記入します。幼児の成長に合わせて、実態に変化があった場合には追加します。
願い			
本人	令和〇年度	毎日楽しく遊びたい。	
	令和△年度	お友達と仲良くしたい。	
	年度		
保護者	令和〇年度	・園生活に慣れて、お友達や先生と楽しく過ごしてほしい。 ・トイレで排泄できるようになってほしい。	
	令和△年度	・やりたいことや、困ったときなどに、自分の気持ちを言葉で伝えられるようになってほしい。 ・行事のときなどに、見通しをもって落ち着いて参加できるようになってほしい。	
	年度		

支援の目標	
◎集中しやすい環境構成を行う。	○注意をコントロールする方法を身に付ける。
◎生活や活動の流れをわかりやすく知らせる。	○予定表や手順表を活用して順序や時間的な概念を育てる。
◎本人の気持ちを汲み取って言語化する。	○気持ちの伝え方を身に付ける。
➡◎支援による改善が図られること。→次の支援内容・方法に具体的に記入する。	
○指導により本人が身に付けることで生活しやすくなること。→個別の指導計画に具体的に記入する。	

支援内容・方法 (個別に必要な合理的配慮)	【教育内容・方法】 <ul style="list-style-type: none">名前を呼ぶ、写真や絵などを提示するなど、注目を促してから話す。一日の予定や行事、集会の流れを、写真や絵を合わせて示したり、終了時刻が分かるように時計にマークを付けたりして知らせる。慣れない活動を予定しているときには、事前に活動場所を見せ、何をどのくらい行うのか伝えておく。気持ちを汲み取って言語化し、本人と一緒に相手伝えるようにする。	【評価】 3歳→継続:注目できる時間が延びている。絵カードよりも写真カードの方が実際の活動と結びつきやすい。
	【支援体制】 <ul style="list-style-type: none">学級で使用する写真や絵カードは、担任、副担任、支援員が共通したものを持ち、使い方についても統一する。家庭で使用しているものがあれば、提供してもらう。行事や集団活動では、支援員が個別に補足説明したり、取り組み方を示したりする。	【評価】 3歳→継続:個別に写真や絵カードで次の活動を確かめることで、参加できることが増えている。
	【施設・設備】 <ul style="list-style-type: none">注意がそれやすいため、一斉指導のときには、遊具や玩具の棚のカーテンを閉め、視界に入らないようにする。隣の保育室や廊下の音が入らないようにドアや窓を閉めたり、活動時間をずらしたりする。座席は、掲示物が視界に入りにくい位置にし、隣に支援員がついたり、モデルになるような幼児を配置したりする。トイレに慣れるように、好きなキャラクターの絵を貼る。	【評価】 3歳→継続:視覚的な情報量の調整が効果的である。 →変更:絵本の読み聞かせでは、座席を配慮し、支援員が隣につかなくても参加できるようになっている。 3歳→終了:園外での活動でもトイレに入ることができる。
年度末の子どもの姿と願い	令和 ○年度 友達と同じ遊びをしたい気持ちが育っており、幼児同士のかかわりの中で歩み寄りができるようになってほしい。	
	令和 △年度	
	年度	年度末までに見られた子ども変容を基に、次年度育てたい幼児像を記入する。

新しいステージ(転園・転所や就学等)でのより良い連携のために伝えたいこと	
本人	・新しい先生や支援員さんと仲良くなりたいと思っている。 転園、転所や就学(年長児の年度末)の際に記入する。進級の場合は、空欄でかまわない。
保護者	・新しい場所や生活に慣れるまでは、これまで使っていた写真カードなどを継続して使い、分かりやすく伝えてもらえるとよい。
保育者	・慣れない場所や初めての活動のときには、事前に活動の流れや場所を伝え、本人の心配事を確認しておくと、参加がスムーズになると思われる。

【個人情報の取り扱いについて】

- 1 関係者以外が閲覧できないようファイル管理を厳正に行う。
- 2 本計画を策定した機関が、別の機関に本計画を提示する場合は、事前に必ず保護者の了解を得る。
- 3 2において本計画の提示を受けた機関は、その情報を提示目的以外に使用してはならない。

※ 本計画の内容に同意し、関係機関や就学先等に情報共有することを承諾します。

年度	令和○年度	令和△年度	年度
保護者署名	あいづ 会津 △△		懇談等で、合意形成ができたら、署名していただく。